

横浜旭中央総合病院 初期臨床研修プログラム

- 2026 年度版 -



IMS〈イムス〉グループ 医療法人社団 明芳会

横浜旭中央総合病院

臨床研修管理委員会



目次

研修体制	- 3 -
1. 研修プログラムの名称・番号	- 3 -
2. 研修プログラムの特色	- 3 -
3. プログラム責任者氏名及び指導体制	- 3 -
4. 研修医の基本的任務	- 3 -
5. スケジュールの概要	- 3 -
6. 臨床研修を行う分野	- 4 -
臨床研修病院群	- 6 -
1. 基幹型臨床研修病院	- 6 -
2. 協力型臨床研修病院	- 6 -
3. 研修協力施設	- 7 -
臨床研修の総合目標	- 8 -
A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)	- 8 -
B. 資質・能力	- 8 -
C. 基本的診療業務	- 9 -
経験目標	- 9 -
A. 経験すべき症候	- 9 -
B. 経験すべき疾病・病態	- 9 -
C. 経験すべき診察法・検査・手技等	- 9 -
各科共通 方略	- 10 -
各科共通 評価	- 10 -
必修科目	- 11 -
選択科目	- 15 -
研修医の処遇	- 22 -
研修医の募集要項	- 23 -
1. 研修医の募集定員・方法	- 23 -
2. 応募資格	- 23 -
3. 応募必要書類	- 23 -
4. 採用試験	- 24 -
5. 採用試験及びプログラムに関する問い合わせ窓口	- 24 -

研修体制

1. 研修プログラムの名称・番号

- ・ 名 称 : 横浜旭中央総合病院群初期臨床研修プログラム
- ・ 番 号 : 030301304

2. 研修プログラムの特色

横浜旭中央総合病院は1981年に設立され地域中核の総合病院として救急症例を多く受け入れるほか、一般的な疾患から高度な専門的治療を要する症例までさまざまなニーズに応えられる体制を整えている。

病床数515床、一般病棟以外にHCU、SCU、回復期リハビリ病棟、障がい者病棟を有し、全30診療科で構成され各分野の専門医が医療を提供することを責務としている。

プライマリケア疾患としての common disease を前述したように多数症例経験できることに加え、神奈川県3次救急医療機関を中心とした協力型臨床研修病院として本プログラムに組み入れ、高度先進医療を経験する機会を提供する。さらに研修修了後の進路を幅広く見られるよう研修過程において当院で不足した症例がある場合にも多くの協力施設にて経験できるようプログラムを実施している。

3. プログラム責任者氏名及び指導体制

プログラム 責任者 | 稲木 敏一郎（横浜旭中央総合病院 副院長/麻酔科部長）

プログラム副責任者 | 山中 太郎（横浜旭中央総合病院 病院長）

研修医が研修する各診療科に指導医を置き研修を行ない、指導は本プログラムに則り実施する。

4. 研修医の基本的任務

- ・ 研修医は、指導医のもとに、担当医として主治医の指示する診療を行ない、診療科以外の部門では指導責任者のもとで研修する。オリエンテーション、症例検討会等の研究会に出席しなければならない。
- ・ 診療に当たっては、主治医が決定した診療計画に基づき医学的に正しい診療を行なう。
- ・ 研修期間中の研修病院・施設以外の勤務は、禁止する。

5. スケジュールの概要

本プログラムでは、研修開始期間にオリエンテーションを実施後、内科、救急部門、外科、小児科、麻酔科、産婦人科、精神科、地域医療を研修し、自由選択については4週を1クールとし32～36週のローテーションを行う。

自由選択は研修医各自の希望により、将来診療科の研修や手技向上等を目的として選択することが出来る。

一般外来研修に関しては、並行研修にて4週以上実施し、地域医療2年次に研修を行う。

【2年間の代表的なスケジュール】

週	1~4	5~8	9~12	13~16	17~20	21~24	25~28	29~32	33~36	37~40	41~44	45~48	49~52
1年	内科						救急部門	外科	麻酔科	自由選択			
	(3診療科)												
2年	産婦	地域	精神科	小児科	自由選択(36週)								
	人科	医療											



6. 臨床研修を行う分野

必修科目：	内科	横浜旭中央総合病院	24 週
	救急部門	横浜旭中央総合病院	12 週
	外科	横浜旭中央総合病院	4 週
	麻酔科	横浜旭中央総合病院	4 週
	小児科	横浜旭中央総合病院	4 週
	産婦人科	板橋中央総合病院	4 週
		聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	
		イムス富士見総合病院	
	精神科	江田記念病院 / 鶴川サナトリウム病院	4 週
	地域医療	成和クリニック	4 週
科目：		しらはた胃腸肛門クリニック横浜	
	内科	横浜旭中央総合病院	4 週以上
		聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	
		イムス富士見総合病院	
		川崎幸病院	
	救急救命	北里大学病院 / 板橋中央総合病院	4 週以上
		聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 /	
		イムス富士見総合病院	
	外科	横浜旭中央総合病院 / 川崎幸病院 /	4 週以上
		イムス富士見総合病院	
	小児科	横浜旭中央総合病院 / 板橋中央総合病院	4 週以上
		イムス富士見総合病院	
	産婦人科	板橋中央総合病院	4 週以上
		聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	
		イムス富士見総合病院	
	精神科	江田記念病院 / 鶴川サナトリウム病院	4 週以上
	麻酔科	横浜旭中央総合病院 / イムス富士見総合病院	4 週以上
	精神科	江田記念病院 / 鶴川サナトリウム病院	4 週以上
	整形外科	横浜旭中央総合病院	4 週以上
	形成外科	横浜旭中央総合病院 / イムス富士見総合病院	4 週以上
	脳神経外科	横浜旭中央総合病院 / イムス富士見総合病院	4 週以上
	泌尿器科	横浜旭中央総合病院 / 板橋中央総合病院	4 週以上
		聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	
		イムス富士見総合病院	
	皮膚科	横浜旭中央総合病院 / イムス富士見総合病院	4 週以上
	眼科	横浜旭中央総合病院 / 北里大学病院	4 週以上
		聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	
	耳鼻科	横浜旭中央総合病院 / 北里大学病院	4 週以上
		イムス富士見総合病院	



リハビリテーション科	横浜旭中央総合病院	/ イムス富士見総合病院	4 週以上
放射線科	横浜旭中央総合病院	/ イムス富士見総合病院	4 週以上



臨床研修病院群

1. 基幹型臨床研修病院

施設の名称	医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院
所在地	神奈川県横浜市旭区若葉台 4-20-1
研修分野	内科・救急部門・外科・小児科・麻酔科・選択科

2. 協力型臨床研修病院

施設の名称	北里大学病院
所在地	神奈川県相模原市南区北里一丁目 15 番 1 号
研修分野	救命救急
研修実施責任者	佐藤 武郎
研修医の指導を行う者	片岡 祐一、小泉 寛之、朝隈 禎隆、桎見 文枝、花島 資、山谷 立大、 田村 智、岩川 さおり

施設の名称	板橋中央総合病院
所在地	東京都板橋区小豆沢 2-12-7
研修分野	救命救急、産婦人科、選択科
研修実施責任者	石田 友彦
研修医の指導を行う者	石田 友彦

施設の名称	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
所在地	横浜市旭区矢指町 1197-1
研修分野	救命救急、産婦人科、選択科
研修実施責任者	萩原 悠太
研修医の指導を行う者	柿沼 敏行、榎井 良裕

施設の名称	イムス富士見総合病院
所在地	埼玉県富士見市鶴馬 1 9 6 7-1
研修分野	産婦人科、選択科
研修実施責任者	鈴木 義隆
研修医の指導を行う者	鈴木 義隆、小宮山 謙一郎、大沼 善正、田山 陽資、鷺内 隆雄、 淵上 達夫、根岸 潤

施設の名称	社会医療法人財団石心会 川崎幸病院
所在地	神奈川県川崎市幸区大宮町 31-27
研修分野	選択科
研修実施責任者	日月 裕司



研修医の指導を行う者	日月 裕司
施設の名称	医療法人社団明芳会 江田記念病院
所在地	神奈川県横浜市旭区若葉台 4-20-1
研修分野	精神科
研修実施責任者	武田 務
研修医の指導を行う者	武田 務

施設の名称	医療法人財団明理会 鶴川サナトリウム病院
所在地	東京都町田市真光寺町 197
研修分野	精神科
研修実施責任者	小松 弘幸
研修医の指導を行う者	小松 弘幸

3. 研修協力施設

施設の名称	成和クリニック
所在地	神奈川県横浜市緑区十日市場 816-8-101
研修分野	地域医療
研修実施責任者	林 孝太郎
研修医の指導を行う者	林 孝太郎

施設の名称	しらはた胃腸肛門クリニック横浜
所在地	神奈川県横浜市緑区長津田 5-6-32
研修分野	地域医療
研修実施責任者	白畑 敦
研修医の指導を行う者	白畑 敦

臨床研修の総合目標

病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身につけなくてはならない。

医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

経験目標

A. 経験すべき症候

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

B. 経験すべき疾病・病態

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

C. 経験すべき診察法・検査・手技等

医療面談、身体診察、臨床推論、臨床手技（気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、圧迫止血法、包帯法、採血法、注射法、腰痛穿刺、穿刺法、導尿法、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入と管理、局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合、軽度の外傷・熱傷の処置、気管挿管、除細動等）、検査手技（血液型鑑定・交差適合試験、動脈血ガス分析、心電図の記録、超音波検査等）、地域包括ケア・社会的視点、診療録

各科共通 方略

- ・各科のローテーション研修を基本とする。各科ローテーション研修では、指導医または上級医と共に診療を行い、上記目標を経験する。
- ・救急蘇生や各種主義等について、教育用資材を用いた実技訓練を行う。
- ・すべての検査・治療・手技は、以下の手順で研修を進める。
 - ①指導医に付き添い、見学する形で学習する。
 - ②指導医とともに行う。
 - ③指導医の監督の下で、ひとりで行う。
 - ④指導医は待機して基本的にひとりで行い、必要時には指導医にコンサルトする。
 - ⑤独り立ちし、必要時に専門科医師の指導を受ける。
- ・入職時オリエンテーションや、地域医療連携会等へ参加し、他職種や地域の人々との交流を通じて社会全般や医療問題に関する知見を深める。
- ・CPCをはじめ、各種カンファレンスに参加し、指導医の指導の下症例の発表を行い、内外の文献を簡潔に紹介する。IMS 学会等に参加し発表を行うとともに、得た知識をカンファレンス等での確にフィードバックする。
- ・各科横断的かつ診療科別ローテート研修だけでは不十分な以下の領域については、意識を高め持続させるために、院内の講習会へ参加する。

各科共通 評価

- ・多職種による相互評価 360 度評価を基本とする。初期研修医自身は E-POC2 にて自己評価を行い、臨床研修委員会において指導医評価や多職種評価の結果をフィードバックすることによって、適切な自己評価とさらなる目標設定を本人に促す。
- ・研修医は、半年に 1 回総合研修評価を受ける。臨床研修管理委員会では E-POC2 及び 360 度評価の記録をもとに研修報告が行われ、研修修了に向けた総括的評価が行われる。
- ・総括的評価は、2 年間の研修の最後に、臨床研修管理委員会で行う。過去の評価結果、経験目標の到達度、レポート作成などを総合的に評価する。

必修科目

○内科研修

内科8週(神経内科・消化器内科・リウマチ科・腎臓内科・呼吸器内科・内分泌内科)を2診療科、循環器内科8週、各科において指導医、上級医のもとに外来、入院診療に当たる。

実施施設 | 横浜旭中央総合病院

行動目標

- ・様々な医療スタッフと協調し問題に対処し、幅広い内科疾患に対応できる。
- ・在宅医療や看護、介護等チーム医療を理解し、参加する。
- ・主要な疾患、病態を理解し、診断治療計画を立案・実行できる。
- ・他科へのコンサルテーションが必要か判断し、実行できる。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○救急部門

12週を基本とし、横浜旭中央総合病院では麻酔科4週と8週を内科・外科・整形外科・脳神経外科から選択。指導医、上級医のもとに救急診療にあたる。

実施施設 | 横浜旭中央総合病院

行動目標

- ・生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応をする。
- ・バイタルサインの把握ができる。
- ・重症度および緊急度の把握ができる。
- ・ショックの診断と治療ができる。
- ・二次救命処置（ACLS＝Advanced Cardiovascular Life Support）ができ、一次救命処置（BLS＝Basic Life Support）を指導できる。
- ・頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。
- ・必要な検査（検体、画像、心電図）が指示できる。
- ・緊急性の高い異常所見を指摘できる。
- ・専門医への適切なコンサルテーションができる。
- ・大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照



○外科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院

行動目標

1. チーム医療

- ・医療チームの構成員としての役割を理解し、保険・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調する。
- ・指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- ・上級および同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- ・関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。

2. 安全管理

- ・患者および医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画する。
- ・医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。
- ・医療事故防止および事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。
- ・院内感染対策（Standard Precautionsを含む）を理解し、実施できる。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○小児科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院

行動目標

- ・小児および小児科診療の特性を学び、経験し、初歩的な診察、処置等を習得する。
- ・小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応する。
- ・正常小児の成長、発達に関する知識を学ぶ。
- ・周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる。
- ・周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。
- ・両親または保護者の観察を十分に引き出すための問診（インタビュー）法を学ぶ。
- ・両親または保護者とのコミュニケーションの重要性を学ぶ。
- ・学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。
- ・小児の薬用量、補液量、検査の基準値に関する知識を習得する。
- ・乳幼児の検査に不可欠な鎮静法、採血、血管確保などを経験する。
- ・救急診療、時間外診療を経験する。
- ・成長、発達過程における疾患内容の違いを学ぶ。
- ・先天性疾患の最初の診療は小児期であることを学ぶ。
- ・各種感染症や急性疾患の頻度が高いことを学ぶ。
- ・急速な病状の変化とそれに対する迅速な対応を経験する。
- ・新生児医療は専門性が高い領域であることを学ぶ。



経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○麻酔科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院

行動目標

- ・麻酔科に関連する基本的な知識と技術を修得する。
- ・手術室業務に当たることによってチーム医療を実践する。
- ・患者さま確認、清潔不潔の区別、手術用手袋、消毒・滅菌、各種注射法、静脈路の確保
- ・術前問題点の把握、麻酔法の選択、抗凝固薬等の休薬、麻酔関連合併症、術後疼痛の評価
- ・麻酔で頻用される薬剤、気管支喘息に注意すべき製剤、毒薬・劇薬、輸液・輸血・血液由来製剤の種類と適応
- ・全身麻酔と区域麻酔、診療報酬請求上の問題点、麻酔器の構造・始業点検・人工呼吸の様式
- ・全身麻酔および脊髄くも膜下麻酔の実践
- ・気道確保、気管挿管、挿管困難症、ラリングマスク、全身麻酔の導入・維持
- ・脊柱・脊髄等の解剖、皮膚分節、脊髄くも膜下穿刺

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、プログラム内容に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○産婦人科研修

実施施設 | 板橋中央総合病院 / 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
/ イムス富士見総合病院

行動目標

- ・患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施する。
- ・医療面接におけるコミュニケーションのもつ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。
- ・患者の病歴（主訴、原病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。
- ・患者・家族への適切な指示、指導ができる。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、プログラム内容に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○精神科研修

実施施設 | 鶴川サナトリウム病院 / 江田記念病院

行動目標

- ・日常診療の中で精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応する。
- ・精神症状の捉え方の基本がわかる。
- ・患者・家族と適切なコミュニケーションがとれる。
- ・任意入院、医療保護入院、措置入院および患者の人権と行動制限について理解できる。
⇒精神疾患に対する初期的対応と治療ができる。
- ・デイケアなどの社会復帰や地域支援体制が理解できる。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、プログラム内容に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○地域医療研修

原則として、2年次に実施。診療所での医療業務を体験し、病院の医療業務との違いを理解する。

診療所の指導医とともに往診を体験する。診療所の紹介、逆紹介システムを理解し、診療情報提供書を書く。

実施施設 | 成和クリニック / しらはた胃腸肛門クリニック横浜

行動目標

- ◆「生活者」としての患者を理解する。
 - ・生活の場で患者・家族と信頼関係を構築し、円滑に診療を継続する素養を養う。
 - ・患者の家族背景を理解し、家族のサポートを行なうことの重要性を学ぶ。
- ◆病状の安定した患者の自宅での医学的管理の基礎を身につける。
 - ・自宅での経管栄養、尿道カテーテル管理、人工呼吸器管理などを学ぶ。
 - ・褥瘡や痴呆、神経難病など在宅診療に特有な疾患の基本的な診療能力を身につける。
- ◆急性疾患をもつ在宅患者の往診を行ない、自宅でできる限られた医学的手段を用いて適切な診断を下し、治療を行ない、入院適応の判断を指導医とともに経験する。
- ◆訪問看護師・訪問薬剤師やその他の職種との連携を経験する。
 - ・通所サービスやショートステイなどの居宅サービスの実態と適応について学ぶ。
 - ・介護保険制度、身体障害者福祉制度などの基礎的な制度活用について学ぶ。
- ◆「最期まで自宅で生きる」という希望実現としてのターミナルケアを経験する。
 - ・患者の自己決定権に基づき、延命治療の放棄という側面がありうることを理解する。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照



選択科目

当院または協力型臨床研修病院にて将来専門としたい診療科を下記診療科の中から選択。これら各々の設定はプログラム責任者及び指導責任者が到達目標を考慮した上で当該研修が可能。

〔選択科目〕

内科、救急救命、外科、小児科、産婦人科、精神科、麻酔科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻科、リハビリテーション科、放射線科

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / 板橋中央総合病院 / イムス富士見総合病院
/ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 / 北里大学病院 / 川崎幸病院
/ 鶴川サナトリウム病院 / 江田記念病院

○内科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
川崎幸病院 / イムス富士見総合病院

行動目標

- ・様々な医療スタッフと協調し問題に対処し、幅広い内科疾患に対応できる。
- ・在宅医療や看護、介護等チーム医療を理解し、参加する。
- ・主要な疾患、病態を理解し、診断治療計画を立案・実行できる。
- ・他科へのコンサルテーションが必要か判断し、実行できる。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○救命救急

実施施設 | 北里大学病院 / 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

行動目標

- ・生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応をする。
- ・バイタルサインの把握ができる。
- ・重症度および緊急度の把握ができる。
- ・ショックの診断と治療ができる。
- ・二次救命処置（ACLS＝Advanced Cardiovascular Life Support）ができ、一次救命処置（BLS＝Basic Life Support）を指導できる。
- ・頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。
- ・必要な検査（検体、画像、心電図）が指示できる。
- ・緊急性の高い異常所見を指摘できる。
- ・専門医への適切なコンサルテーションができる。
- ・大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価



各科共通 研修方略・評価 参照

○外科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / 川崎幸病院 / イムス富士見総合病院

行動目標

1. チーム医療

- ・医療チームの構成員としての役割を理解し、保険・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調する。
- ・指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- ・上級および同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- ・関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。

2. 安全管理

- ・患者および医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画する。
- ・医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。
- ・医療事故防止および事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。
- ・院内感染対策（Standard Precautionsを含む）を理解し、実施できる。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○小兒科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / 板橋中央総合病院 / イムス富士見総合病院

行動目標

- ・小児および小兒科診療の特性を学び、経験し、初歩的な診察、処置等を習得する。
- ・小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応する。
- ・正常小児の成長、発達に関する知識を学ぶ。
- ・周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる。
- ・周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。
- ・両親または保護者の観察を十分に引き出すための問診（インタビュー）法を学ぶ。
- ・両親または保護者とのコミュニケーションの重要性を学ぶ。
- ・学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。
- ・小児の薬用量、補液量、検査の基準値に関する知識を習得する。
- ・乳幼児の検査に不可欠な鎮静法、採血、血管確保などを経験する。
- ・救急診療、時間外診療を経験する。
- ・成長、発達過程における疾患内容の違いを学ぶ。
- ・先天性疾患の最初の診療は小児期であることを学ぶ。
- ・各種感染症や急性疾患の頻度が高いことを学ぶ。
- ・急速な病状の変化とそれに対する迅速な対応を経験する。
- ・新生児医療は専門性が高い領域であることを学ぶ。

経験目標



経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○麻酔科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / イムス富士見総合病院

行動目標

- ・麻酔科に関連する基本的な知識と技術を修得する。
- ・手術室業務に当たることチーム医療を実践する。
- ・患者さま確認、清潔不潔の区別、手術用手袋、消毒・滅菌、各種注射法、静脈路の確保
- ・術前問題点の把握、麻酔法の選択、抗凝固薬等の休薬、麻酔関連合併症、術後疼痛の評価
- ・麻酔で頻用される薬剤、気管支喘息に注意すべき製剤、毒薬・劇薬、輸液・輸血・血液由来製剤の種類と適応
- ・全身麻酔と区域麻酔、診療報酬請求上の問題点、麻酔器の構造・始業点検・人工呼吸の様式
- ・全身麻酔および脊髄くも膜下麻酔の実践
- ・気道確保、気管挿管、挿管困難症、ラリengelマスク、全身麻酔の導入・維持
- ・脊髄・脊髄等の解剖、皮膚分節、脊髄くも膜下穿刺

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○産婦人科研修

実施施設 | 板橋中央総合病院 / 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

/ イムス富士見総合病院

行動目標

- ・患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施する。
- ・医療面接におけるコミュニケーションのもつ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。
- ・患者の病歴（主訴、原病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。
- ・患者・家族への適切な指示、指導ができる。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○精神科研修



実施施設 | 鶴川サナトリウム病院 / 江田記念病院

行動目標

- ・日常診療の中で精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応する。
- ・精神症状の捉え方の基本がわかる。
- ・患者・家族と適切なコミュニケーションがとれる。
- ・任意入院、医療保護入院、措置入院および患者の人権と行動制限について理解できる。
⇒精神疾患に対する初期的対応と治療ができる。
- ・デイケアなどの社会復帰や地域支援体制が理解できる。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○整形外科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院

行動目標

- ・整形外科的な基本的診察法を習得する。
- ・救急外来にて外傷、骨折、脱臼の徒手整復法、外固定法などの初期治療を習得する。
- ・X線、CT、MRI、エコー等画像診断の実施、読影、評価法を習得する。
- ・関節可動域計測、理学所見などの基本的な診察手技を習得する。
- ・各種神経ブロック、トリガーポイント、関節内注射の手技を習得する。
- ・神経学的診察法を習得し、脊髄高位診断能力を習得する。
- ・頻度の多い橈骨遠位端骨折、大腿骨近位部骨折の手術手技を習得する。
- ・手術治療に向けた術前の準備、手術方法の決定、インプラントの選択について学ぶ。
- ・整形外科手術の基本的な手技（鋼線固定、プレート固定、髓内釘固定）について学ぶ。
- ・変性疾患の手術に参加し、変性所見、関節症変化や神経障害について学ぶ。
- ・周術期合併症の予防、対策、治療について学ぶ。
- ・日常生活動作向上と早期社会復帰におけたりハビリテーションプログラムを学ぶ

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○リハビリテーション科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / イムス富士見総合病院



行動目標

- ・ 各々の原因による障害の評価とリハビリ処方ができる。
- ・ 予後予測をたてて、リハビリのゴールを明示できる。
- ・ 必要に応じ、適切な装具や歩行介助用具を検討できる。
- ・ 他職種とのチーム医療を行える。
- ・ 在宅復帰に必要な家屋環境や社会的資源について検討できる。
- ・ 摂食嚥下機能の評価と指導が行える。
- ・ 外来や入院他科依頼患者の診察、評価を行い、リハ処方を行う。
- ・ 担当した患者の経過観察や、再評価を行う。
- ・ 受け持ち患者の全身管理を行う。
- ・ 他職種、他科とのカンファレンスに参加する。
- ・ ボトックス注射やモーターポイントブロックなどの手技を行う。
- ・ 嚥下造影や嚥下内視鏡などの検査を行う。
- ・ 各種補装具の処方、作成を行う。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○脳神経外科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / イムス富士見総合病院

行動目標

- ・ 神経診察が出来る
- ・ 脳神経外科疾患の診断が出来る（特に脳血管障害や頭部外傷等）
- ・ 脳神経外科手術について理解を深める
- ・ 救急外来や病棟において神経診察が出来る（救急外来や病棟において患者の診察を行い患者管理を学ぶ）
- ・ 脳血管障害や頭部外傷等において病態の理解が出来ると伴に画像検査を含め適切な診断が出来る（指導医に付いて実際の診療を行う）
- ・ 脳神経外科手術、脳血管造影検査に指導医に付いて参加し理解を深めるとともに技術を習得する
- ・ 外科的処置（縫合処置等）を実習する。
- ・ 患者のプレゼンテーションの練習および可能であれば学会発表や学会参加を行う。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○形成外科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / イムス富士見総合病院

行動目標

- ・ 成外科医としての基本的な知識と技術を習得する
- ・ 外科系の基本となる縫合を習得する
- ・ マイクロサージャリーの基本的な縫合を習得する
- ・ 指導医のもと外傷の縫合や皮膚皮下腫瘍など執刀を経験する
- ・ 顔面骨骨折の診断治療を学ぶ
- ・ 形成外科医の基本的な手技を習得する
- ・ 外来にて診断と治療方針を学ぶ

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○泌尿器科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / 板橋中央総合病院

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 / イムス富士見総合病院

行動目標

- ・ 泌尿器科領域の診断、検査と治療に関する知識、技能を習得する。
- ・ 泌尿器科の病歴聴取、身体診察ができる。
- ・ 泌尿器科領域の解剖と生理を理解する。
- ・ 泌尿器科領域の基本的疾患を理解する。
- ・ 泌尿器科領域に特有な検査、処置を理解し習得する。
- ・ 泌尿器科疾患の初期対応を習得する。
- ・ 基本的な泌尿器科疾患の治療法を理解し習得する。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○眼科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / 聖マリアンナ大学横浜市西部病院 / 北里大学病院

行動目標

- ・ 眼科における基礎的知識、診断方法と検査技術を修得する。
- ・ 眼科領域緊急疾患の対応と診断について知る。
- ・ 患者医師関係の構築、チーム医療者としての役割を学ぶ。
- ・ 外来にて基本的診察法と診断、治療方針を学ぶ。
- ・ 眼科医の基本的な手技を習得する。



経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○皮膚科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / イムス富士見総合病院

行動目標

- ・皮膚科診療に必要な 基本的知識や手技を習得する。
- ・発疹学に基づく皮膚病変の記載を習得する。
- ・病変に応じた外用薬の塗布、消毒・創傷処置の基本手技を習得する。
- ・皮膚外科の基本手技を理解し、真皮および表皮縫合ができる。
- ・皮膚炎の病態、皮膚症状および治療について修得する。
- ・水疱性疾患の分子病態、診断および治療法を理解し修得する。
- ・外来にて診断と治療方針を学ぶ。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○耳鼻咽喉科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / 北里大学病院 / イムス富士見総合病院

行動目標

- ・耳鼻咽喉科診療の特殊性を理解し、プライマリケアに対処する為に必要な診断 や治療に関する知識と技能の修得を目指す。
- ・日常診療上で遭遇する機会の多いものや緊急性の高いものに関しては、診断及び治療方法を理解し、実践することができる。
- ・より専門的な治療を要する 疾患に関しては、適切な初期診断を行い専門医も移管するまでの初期診療を行う 技術を獲得する。
- ・耳鼻科の特殊性を学ぶ。
- ・耳鼻咽喉科は、聴力、嗅覚、味覚、平衡感覚、嚥下、呼吸など、人間の感覚及び生命維持に関わる領域の両方を取り扱う。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

○放射線科研修

実施施設 | 横浜旭中央総合病院 / イムス富士見総合病院

行動目標

- ・CT, MRI の適応を理解すること
- ・画像解剖を理解し、基本的な疾患の読影ができるようになる
- ・医療放射線被曝について理解する
- ・急性期医療や臨床現場の様々なニーズに対応できるよう放射線医学全般の知識を習得する。
- ・単純写真、CT, MRI, 核医学検査などのモダリティの特性を理解し、疾患、病態に合わせて適切なモダリティを選択できる。
- ・造影剤の特性、適応、禁忌、副作用を理解し、適切な使用ができる。
- ・各モダリティにおける画像解剖、系統的読影方法を理解する。
- ・放射線被曝について理解し、被曝防護について理解する。
- ・基本的な IVR 手技について理解する。

経験目標

経験すべき症候・疾病・病態および経験すべき診察法・検査・手技に関しては、本プログラム総合目標に準ずる。

方略・評価

各科共通 研修方略・評価 参照

研修医の処遇

1. 研修医の身分

研修医の身分 | 常勤嘱託

研修期間 | 原則として2年間

研修方式 | 当院ならびに協力病院におけるローテーション(別紙カリキュラム)

研修期間禁止事項 | アルバイトをしてはならない

2. 勤務時間及び休暇

勤務時間 | 平日 8:30～17:30(休憩 13:00～14:00)

研修医室 | あり

時間外勤務 | 研修上特に必要がある場合、所定の勤務時間外または休日に勤務することがある。

当直勤務 | あり(月4回程度)

有給休暇 | 1年次10日間、2年次11日間

3. 研修手当

支給額 | 1年次35万/月 2年次38万/月

当直手当 | あり 時間外手当 | あり 休日手当 | あり

4. 宿舍の有無

あり。寮費は折半。光熱水費は自己負担とする。

5. 妊娠・出産・育児に関する施設及び取組



院内保育所 | あり

病児保育 | あり

夜間保育 | あり

※院内保育所にて一時保育対応可能

体調不良時の休憩場所 | あり

授乳スペース | あり

6. 社会保険

神奈川県医療従事者健康保険組合 | 加入 厚生年金保険 | 加入

労働者災害補償保険の適用 | あり 雇用保険の適用 | あり

7. 医師賠償責任保険

病院において加入(個人加入は任意)とする。

8. 健康管理

・研修医は、年2回研修病院において健康管理を受ける。

9. 外部研修活動に関する事項

・学会、研修会等への参加は可とする。(参加費用・旅費支給あり※演者に限る)

10. 研修評価・修了判定

評価方法 | 各診療科での研修修了時に、研修医はE-POC2評価表に基づいて自己評価、指導医からの評価、コメディカルスタッフからの評価を受ける。臨床研修管理委員会は、それらの評価を資料とし、総合評価を行う。プログラム責任者はその結果を研修医にフィードバックする。

修了判定 | 2年間の評価資料を基に、臨床研修管理委員会は総合評価を行い、修了判定をする。修了判定された者には、修了判定を行う。目標達成度が不十分な場合は、修了を認定しない。

研修医の募集要項

1. 研修医の募集定員・方法

・6名・公募

2. 応募資格

当院での病院見学を行ったもので、次の1,2のいずれかの要件を満たす者

- ・令和7年度医師国家試験に合格する予定の者
- ・医師国家試験に合格している者

3. 応募必要書類

・初期臨床研修医採用試験申込書(ホームページ参照)



- ・卒業(見込み)証明書
- ・成績証明書
- ・地域枠確認書

4. 採用試験

面接及び筆記試験にて採否を判定

採用方法 | マッチング実施主体が公表する日程に則り当院の研修プログラムに応募した研修希望者に対して、上記試験を実施する。選考結果に基づき希望順位表を実施主体に提出し、マッチング及びその結果を待って採用を決定する。※組み合わせが決定しなかった分については、マッチング終了後に募集し、面接試験を実施の上、採用者を決定する。

5. 採用試験及びプログラムに関する問い合わせ窓口

横浜旭中央総合病院 総務課 臨床研修医採用担当

電話 | 045-921-6161

Email | asahi-ikyoku@asahi-hp.jp

住所 | 〒241-0801 神奈川県横浜市旭区若葉台 4-20-1